

	発表者	所属	予稿タイトル	共著者	共著者所属	発表形態
11月6日(火)	5h (13:30-18:30)					
	13:30	はじめに、事務連絡				
	13:35-14:35	長寿命ガス、森林、新しい観測手法(座長:遠嶋康徳・国立環境研)				
	A-1-1	高橋 けんし	京都大学生存圏研究所	暖温帯ヒノキ林におけるメタンの樹冠内鉛直プロファイルの通年観測	小杉 緑子、坂部 綾香、金澤 瑛	京大院農
	A-1-2	草苺 聡	名古屋大学太陽地球環境	光スペクトラムアナライザを使った大気中の二酸化炭素測定法の高精度化	1:長濱智生、2:荻野瀧樹	名古屋大学太陽地球環境研究所
	A-1-3	松田 真	京都大学 生存圏研究所	ラムライダーを用いた地表面に近い大気の水蒸気鉛直断面構造の連続観測	1:矢吹正教、2:高橋けんし、3:津田敏隆	1:京都大学 生存圏研究所、2:京都大学 生存圏研究所、3:京都大学 生存圏研究所
	A-1-4	松永 壮	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 苫小牧研究林	高度成長期のスギ・ヒノキ造林による森林植生改変と生物起源反応性有機ガスの変化	中塚誠次2、佐伯いけ代1,3、望月智貴4、谷晃4、日浦勉1	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 苫小牧研究林1、NTTデータ CCS2、一般財団法人自然環境研究センター3、静岡県立大学4
	14:35-15:40	VOG、エアロゾルなど(座長:坂東博・大阪府立大)				
	A-1-5	江波 進一	京都大学白眉センター・京	テルペン類の未知のシンク:酸性表面への乾性沈着メカニズムの実験的説明		
	A-1-6	Yuemei HAN	Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University	A laboratory study on the reactions of gaseous C8-C10 aldehydes in the presence of atmospheric aerosol components: Detection of high-molecular-weight products using mass spectrometry	Yuemei HAN, Michihiro MOCHIDA	Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University
	A-1-7	宮崎 洗治	理化学研究所 基幹研究所 光グリーンテクノロジー特別研究ユニット	光化学オキシダント生成における未知HO2反応性とその影響評価ー季節変動についてー	宮崎洗治1、中嶋吉弘2、井田明3、加藤俊吾2、梶井克純3	理化学研究所 基幹研究所1、首都大学東京 都市環境科学研究科2、京都大学 地球環境学3
	15:40-15:50	休憩				
	15:50-16:30	放射能(座長:石島健太郎・JAMSTEC)				
	A-1-8	北 和之	茨城大学理学部	福島第一原発事故後の大気放射能濃度の変動と大気再浮遊の影響	田中美佐子1、佐藤おかり1、出水宏幸1、渡邊 明2、鶴田治雄3、植松光夫3、松垣正吾3、吉田尚弘4、豊田 栄4、山田桂大4、篠原 厚5、三上正男6、五十嵐康人6、恩田裕一7、末木啓介7、滝川雅之8、長林久夫9、横山明彦10、菅原森野悠、大原利真	1 茨城大学、2 福島大学、3 東京大学、4 東京工業大学、5 大阪大学、6 気象研究所、7 筑波大学、8 海洋研究開発機構、9 日本大学、10 金沢大学、11 宮城教育大学
	A-1-9	森野 悠	国立環境研究所	放射性物質の大気シミュレーションー感度解析を基にした不確実性要因の評価	森野悠、大原利真	国立環境研究所
	16:30-17:00	成層圏(笠井康子・NICT)				
	A-1-10	佐野 琢己	宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 宇宙科学研究所 (ISAS)	超伝導サブミリ波リム放射サウンダ(SMILES)から得られた観測結果の概要	塩谷 雅人、高柳 昌弘、SMILES ミッションチーム	京都大学生存圏研究所、JAXA 宇宙科学研究所
	A-1-11	中島英彰	国立環境研究所・地球環境研究センター	CALIPSO及び地上分光観測から同定されたPSCのタイプによるオゾン破壊率の違いについて	中島英彰、武田真憲、大矢麻奈未、M. C. Pitts	国立環境研究所、筑波大学、明治図書出版、NASA/LaRC
	17:00-18:30	ポスター				
11月7日(水)	9.7h (9:00-18:40)					
	9:00-10:10	グローバル上層大気化学(上部成層圏~熱圏)(座長:松見豊・名大STE研)				
	A-2-1	笠井康子	情報通信研究機構	SMILESで観測した地球大気における塩素分布とその化学	佐川英夫、佐藤知紘、栗林康太、Daniel Kryling, Ralph Lehmann	情報通信研究機構、Alfred Wegener Institute for Polar and Marine Research
	A-2-2	横山 顕悟	大阪府立大学	Validation of stratospheric and mesospheric HCl (L2r product) measured by SMILES	佐川 英夫、真鍋 武嗣、笠井 靖子	NICT、大阪府立大学、NICT
	A-2-3	栗林康太	東京工業大学	SMILES観測によるClO + HO <sub>2</sub> → HOCl + O <sub>2</sub> 反応速度定数の決定	佐川英夫、佐藤知紘、Ralph Lehmann、笠井康子	情報通信研究機構、東京工業大学、Alfred Wegener Institute for Polar and Marine Research
	A-2-4	佐藤知紘	東京工業大学	SMILESによる成層圏・中間圏オゾン同位体観測	笠井康子1,2、佐川英夫2、平木康隆3、吉田尚弘1	1 東京工業大学 2 情報通信研究機構 3 核融合科学研究所
	10:10-12:00	グローバル~領域スケール大気化学(座長:五藤大輔・国立環境研)				
	A-2-5	秋元 肇	アジア大気汚染研究研究	東アジアにおける大気汚染・気候変動コベネネシナリオ提言へむけて	1: 黒川純一、2: 須藤健悟、3: 竹村俊	1: アジア大気汚染研究センター、2: 名
	10:35-10:45	休憩				
	A-2-6	永島達也	国立環境研究所	IIASA参照シナリオによる東アジア大気質の将来変動評価	秋元肇、黒川純一、竹村俊彦、須藤健悟、大原利真	アジア大気汚染研究センター、アジア大気汚染研究センター、九州大学、名古屋大学、国立環境研究所
	A-2-7	坂井悟思	東京大学大学院 理学系研究科 地球惑星科学専	人工衛星データを用いた東アジア域におけるエアロゾル第一種間接効果の研究	1坂井悟思、2 小池真、3 中島孝、4 永尾隆、5 松井仁志	1 東大院・理、2 東大院・理、3 東海大、4 東海大、5 東大院・理
	A-2-8	谷本浩志	国立環境研究所	衛星観測により検出されたシベリア森林火災からの窒素酸化物放出とその影響に関するモデル解析	K. Folkert Boersma	オランダ気象庁
	A-2-9	入江仁士	千葉大CEReS	SCIAMACHY、OMI、GOME-2の対流圏NO <sub>2</sub> カラム濃度を複合利用したCMAQモデルの評価	山地一代、池田恒平、鶴野伊津志、板橋秀一、大原利真、黒川純一	JAMSTEC/RIGC、JAMSTEC/RIGC、九大応力研、九大応力研・環境研、アジア大気汚染研究センター

	A-2-10	五藤大輔	国立環境研究所	全球から領域スケールに対応した大気化学モデル実験とその応用	中島映至2、Tie Dai2,9、打田純也2、清水達也3、佐藤陽祐3、高見昭憲1、上田佳代1、Ng Chris-Fook-Sheng1、佐藤正樹2、富田浩文3、八代尚3、原政之4、鈴木健太郎5、竹村俊彦6、須藤健悟7、森野悠1、大原利真1、丹羽洋介8、滝川雅之4、鶴野伊津志6、宮地あかね2、三澤翔大2、植松光夫2、鶴田治雄2、井上豊志郎2	1 国立環境研究所、2 東京大学大気海洋研究所、3 理化学研究所計算科学研究機構、4 海洋研究開発機構、5 NASA/JPL、6 九州大学応用力学研究所、7 名古屋大学大学院環境学研究科、8 気象庁気象研究所、9 IAP/CAS, China.	口頭ロング
	12:10-13:00	昼食					
	13:00-14:15	グローバル～領域スケール大気化学(座長:井上 誠・国立環境研)					
	A-2-11	須藤健悟	名古屋大学大学院環境学研究科	HO <sub>2</sub> +NO反応におけるHNO <sub>3</sub> 生成経路の対流圏化学場への影響			口頭ショート
	A-2-12	伊藤彰記	海洋研究開発機構	船舶発生源から海洋へ供給される可溶性鉄に関する全球エアロゾルモデル解析			口頭ショート
	A-2-13	森野勇	国立環境研究所	改良した解析アルゴリズムで処理されたGOSAT TANSO-FTS SWIRプロダクトとその検証解析	森野勇1、井上誠1、中前久美1、宮本祐樹2、菊地信弘1、吉田幸生1、内野修1、町田敏暢1、横田達也1、澤庸介3、松枝秀和3、Colm Sweeney4、Pieter P. Tans4、Arlyn E. Andrews4、Prabir K.	国立環境研究所1、岡山大学2、気象研究所3、NOAA/ESRL4、海洋研究開発機構5	口頭ショート
	A-2-14	井上 誠	国立環境研究所 地球環境研究センター 衛星観測研究室	航空機観測データを用いたGOSAT TANSO-FTS SWIR XCO <sub>2</sub> とXCH <sub>4</sub> の検証	森野勇(1)、内野修(1)、宮本祐樹(2)、佐伯田鶴(1)、吉田幸生(1)、横田達也(1)、町田敏暢(1)、澤庸介(3)、松枝秀和(3)、Colm Sweeney (4)、Pieter P. Tans (4)、Arlyn E. Andrews (4)、Prabir K. Patra	1:国立環境研究所、2:岡山大学、3:気象研究所、4:NOAA/ESRL、5:海洋研究開発機構	口頭ショート
	A-2-15	佐伯 田鶴	国立環境研究所 地球環境研究センター	Comparison of estimated fluxes derived from one-year inversion with GOSAT data to decadal inversion analysis with surface data	S. Maksyutov *1, M. Saito *2, V. Valsala *3, T. Oda *4 *5, R. J. Andres *6, D. Belikov *1, P. Tans *5, T. J. Conway *5, Y. Yoshida *1, T. Yokota *1	*1 Center for Global Environmental Research, National Institute for Environmental Studies *2 Laboratoire des Sciences du Climat et l'Environnement, Gif sur Yvette, France *3 Laboratoire des Sciences du Climat et l'Environnement, Gif sur Yvette, France *4 Colorado State University, CO, USA *5 NOAA Earth System Research Laboratory, Boulder, CO, USA *6 NOAA Earth System Research Laboratory, Boulder, CO, USA	口頭ショート
	14:15-14:25	休憩					
	14:25-15:50	大気海洋(座長:古谷浩志・東大AORI)					
	A-2-16	小杉如央	気象研究所地球化学研究部	白鳳丸KH11-10航海で観測された南半球亜熱帯域における海水中pCO <sub>2</sub> /pO <sub>2</sub> の日周変動について	笹野大輔、石井雅男、吉川久幸	気象研、北海道大学	口頭ショート
	A-2-17	青木周司	東北大学大学院理学研究科	白鳳丸による東部太平洋赤道までの温室効果気体の総合観測	稲飯洋一、中澤高清、本田秀之、飯嶋一征、荘司泰弘、松坂幸彦、井筒直樹、吉田哲也、森本真司、菅原敏、豊田栄、古谷浩志、植松光夫、松見豊、	東北大、JAXA、極地研、宮教大、東工大、東大、名大、北大	口頭ロング
	A-2-18	大森裕子	国立環境研究所	プロファイリングバイを用いた大気海洋間における有機化合物のフラックス測定	谷本浩志1、岩田徹2、佐久間博基3、角皆潤3	国立環境研究所1、岡山大学2、名古屋大学3	口頭ショート
	A-2-19	古賀聖治	産業技術総合研究所環境管理技術研究部門	南大洋で観測した大気DMS濃度変動とエアロゾル新粒子生成	共著者1:塩原匡貴、共著者2:和田誠	共著者1、2:国立極地研究所気圏圏研究グループ	口頭ショート
	A-2-20	古谷浩志	東京大学大気海洋研究所	単一微粒子質量分析法による南太平洋における生物起源有機エアロゾルの分布	鄭進永、三浦和彦、植松光夫	東京大学大気海洋研究所(現在:ソウル大学)、東京理科大、東京大学大気海洋研究所	口頭ショート
	15:50-16:20	エアロゾル・大気汚染(座長:金谷有剛・JAMSTEC)					
	A-2-21	和田龍一	帝京科学大学 生命環境学部 自然環境学科	富士山有料道路富士スバルライン沿道における窒素酸化物の観測	米村正一郎 2、児玉直美 2、谷 兎 3、中井裕一郎 4、高梨聡 4、中野隆志 5	1帝京科学大、2農業環境技術研、3静岡県立大、4森林総合研、5山梨県環境	口頭ショート
	A-2-22	伊藤聡	(独)国立環境研究所 地域環境研究センター	福岡市において観測された大気エアロゾルのPMF法による起源の推定	三好猛雄1、高見昭憲1、佐藤圭1)、下野彰夫2)、疋田利秀2)、原圭一郎3)、林政彦3)、兼保直樹4)、畠山史郎5)	1)国立環境研究所、2)汀線科学研究所、3)福岡大学、4)産業技術総合研究所、5)東京農工大学	口頭ショート
	16:20-17:10	会員総会 大気化学研究会2日目の午後		11月7日(水)午後			
	17:10-18:40	須藤健悟	奨励賞 受賞記念				
	17:10-18:40	ポスター					
11月8日(木)	5.1h(9:00-15:35)						
	9:00-9:40	エアロゾル・大気汚染続き(座長:金谷有剛・JAMSTEC)					

	A-3-1	佐藤圭	国立環境研究所	福岡市における有機エアロゾルの広域および都市大気汚染	佐藤圭、高見昭憲、小川佳美、吉野彩子、鈴木亮太、島山史郎、原圭一郎、林政彦、兼保直樹	環境研、農工大、福岡大、産総研	口頭ショート
	A-3-2	鶴田治雄	東京大学大気海洋研究所	タイのピマイにおける大気エアロゾル中の土壌粒子の乾期・雨期における動態	1.及川栄治、2.井上豊志郎、3.渡辺周吾、4.Jinchula Chotpitayasonon、5.Boossarasiri Thana、6.高村民雄、7.竹村俊彦、8.五藤大輔、9.須藤重人、10.米村正一郎、11.世良耕一郎、12.齊藤義弘、13.白砂裕一郎、14.平野耕一郎、15.早坂忠裕、16.中島映至	1.2.3.16.東大気海洋研究所、4.5.Chulalongkorn University、6.千葉大環境リモートセンシング研究センター、7.九大応用力学研究所、8.国立環境研究所、9.10.農業環境技術研究所、11.岩手医大サイクロロンセンター、12.日本アイソトープ協会滝沢研究所、13.14.横浜市環境科学研究所、15.東北大気海洋変動観測研究センター	口頭ロング
	9:40-12:20	<b>スペシャルセッション「氷の世界から探る大気化学」(座長:林 政彦・福岡大)</b>					
	S-1	東久美子	極地研究所	極域アイスニアにおける化学成分の変動と気候・環境復元			特別セッション
	S-2	青木輝夫	気象研究所	光吸収性エアロゾルが積雪アルベドに与える効果の観測とモデリング			特別セッション
	10:50-11:00	休憩					
	S-3	竹中規訓	大阪府立大	氷中(凍結)の化学反応の促進機構と大気化学への影響			特別セッション
	A-3-3	河村公隆	北大低温研	北極海エアロゾル中の低分子ジカルボン酸類の分布	小野かおり、立花英里、Bruno Charriere, Richard Sempere	北海道大学低温科学研究所, Aix-Marseille University, France	口頭ショート
	A-3-4	原圭一郎	福岡大学理学部	南極域で観測された海塩組成分別過程	長田和雄2、矢吹正教3、山内 恭4、中澤文男4、藤田秀二4、JASE Members	2:名古屋大学、3:京都大学、4:極地研	口頭ショート
	A-3-5	岩本洋子	金沢大学環日本海域環境研究センター	能登半島で観測された雲凝結核の性状:雲凝結核効率スペクトルを基にした解析	共著者1 木ノ内健人、共著者2、松木篤	共著者1 金沢大学理工学域、共著者2 金沢大学環日本海域環境研究セン	口頭ショート
	12:20-13:10	昼食					
	13:10-14:10	<b>同位体(座長:角皆 潤・名大)</b>					
	A-3-6	角皆 潤	名古屋大学環境学研究所	ガス状亜硝酸における三酸素同位体異常の発見	大山拓也1・角皆潤1・小松大祐1・中川書子2・野口泉3・山口高志3	1名大院環境、2北大院理、3道総研環境科学研究センター	口頭ショート
	A-3-7	小松大祐	名古屋大学 大学院環境学研究所	安定同位体指標を用いた土壌による水素の生成・分解過程について	角皆潤1・中川書子2	名古屋大学 大学院環境学研究所1、北海道大学 大学院理学研究院2	口頭ショート
	A-3-8	坂田昂平	広島大学理学研究科地球惑星システム学専攻	都市大気中の鉛濃度・化学種・同位体比による鉛排出源特定を試み	坂口綾、谷水雅治、高久雄一、高橋嘉夫	広島大学、JAMSTEC、(財)環境研、広島大学	口頭ショート
	A-3-9	石戸谷重之	産業技術総合研究所 環境管理技術研究部門 大気環境評価研究グループ	質量分析計を用いた大気中酸素/窒素比、アルゴン/窒素比、CO <sub>2</sub> 濃度、および窒素・酸素・アルゴン安定同位体比の高精度同時連続観測	村山昌平	産業技術総合研究所 環境管理技術研究部門 大気環境評価研究グループ	口頭ショート
	14:10-14:35	<b>古代大気化学(座長:角皆 潤・名大)</b>					
	A-3-10	古賀聖治	産業技術総合研究所環境管理技術研究部門	ペルム紀末におけるメタンと硫化水素の大量放出が生物大量絶滅に与えた影響	海保邦夫	東北大学大学院理学研究科	口頭ロング

ショート:発表 10 分、質疑応答 5 分  
ロング:発表 18 分、質疑応答 7 分  
招待:発表 28 分、質疑応答 7 分 (Invited: 28 min talk with 7 min discussion)